

令和7（2025）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修 実施報告①

実施日：令和7年4月24日（木）

本研修では、新たに生涯学習・社会教育関係職員として配属された方々が、業務を遂行する上で必要となる社会教育行政に関する基礎的知識や学習プログラムの企画・立案の技術等を学びます。第1回の研修には、35名の生涯学習・社会教育行政に携わる様々な立場の方が受講されました。

○ 説明「本県の生涯学習推進に向けて」

県生涯学習課職員

「初めて生涯学習・社会教育行政を担う人に必要な基礎知識」

総合教育センター職員

最初に生涯学習・社会教育に関する施策の動向を踏まえながら、栃木県生涯学習推進計画（六期計画）における、「学び、つながり、活躍できる人づくり」の基本目標を達成するために3つの基本施策について説明がありました。

次に、生涯学習の理念や社会教育の定義について、根拠となる法律や答申等を交えて説明がありました。社会が急速な変化を続け、予測困難な時代になっていく中で、生涯学習の重要性はますます高まっていること、それらを支える職員は学習者の特徴や地域の課題を的確に捉え、「個人の要望」と「社会の要請」のバランスを確保しながらあらゆる機会や場所で学びの充実が図られることの大切さについて確認しました。



○ 事例発表「生涯学習・社会教育に携わって～関係職員としてのやりがい・楽しさ～」

下野市教育委員会事務局生涯学習文化課 主査 山中 裕貴 氏

山中氏は現在、下野市教育委員会事務局生涯学習文化課に勤務され、今年で3年目になります。今回は、御自身が担当した事業について、事業を進めていく際に留意していることや工夫したことについて、2つの事例を紹介しながらエピソードを添えてお話いただきました。

「下野市立音楽祭」と「年輪の集い」のどちらも、多くの人の協力により、事業が開催できていることや、人とのつながりが生まれることで、一から事業を作り上げていくときに楽しさややりがいを感じるとのことでした。また、社会教育には正解がなく、新しいアイデアを仲間と出し合っていくことが楽しい分野だと感じる瞬間だったと、エピソードを交えながらお話いただきました。

事例を交えたお話は、大変わかりやすく、受講者にとって今後の業務の参考となるものでした。



○ 情報交換「業務に対する情報の共有とネットワークづくり」

総合教育センター職員

前半は、エンカウンター・自己紹介を行い、受講者同士で名刺交換をしながら交流を深めることができました。後半は、4、5人のグループに分かれて、研修の感想や業務に関する悩み、課題等の情報交換をしました。その後、各グループで出た意見や感想等を発表し、全体で共有しました。どの受講者も積極的に意見を交わし、関係職員間の横のつながりづくりをすることができました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・社会教育に関する国や県の考えや、法的な位置付けなど大変勉強になりました。
- ・下野市の事例発表を聞き、生涯学習業務のやりがいや楽しさが伝わり、良い刺激となりました。
- ・生涯学習は人とのつながりを大切にしていることが分かりました。研修で得たつながりを生かしていきたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

